



金華山と鵜飼図 原三溪筆

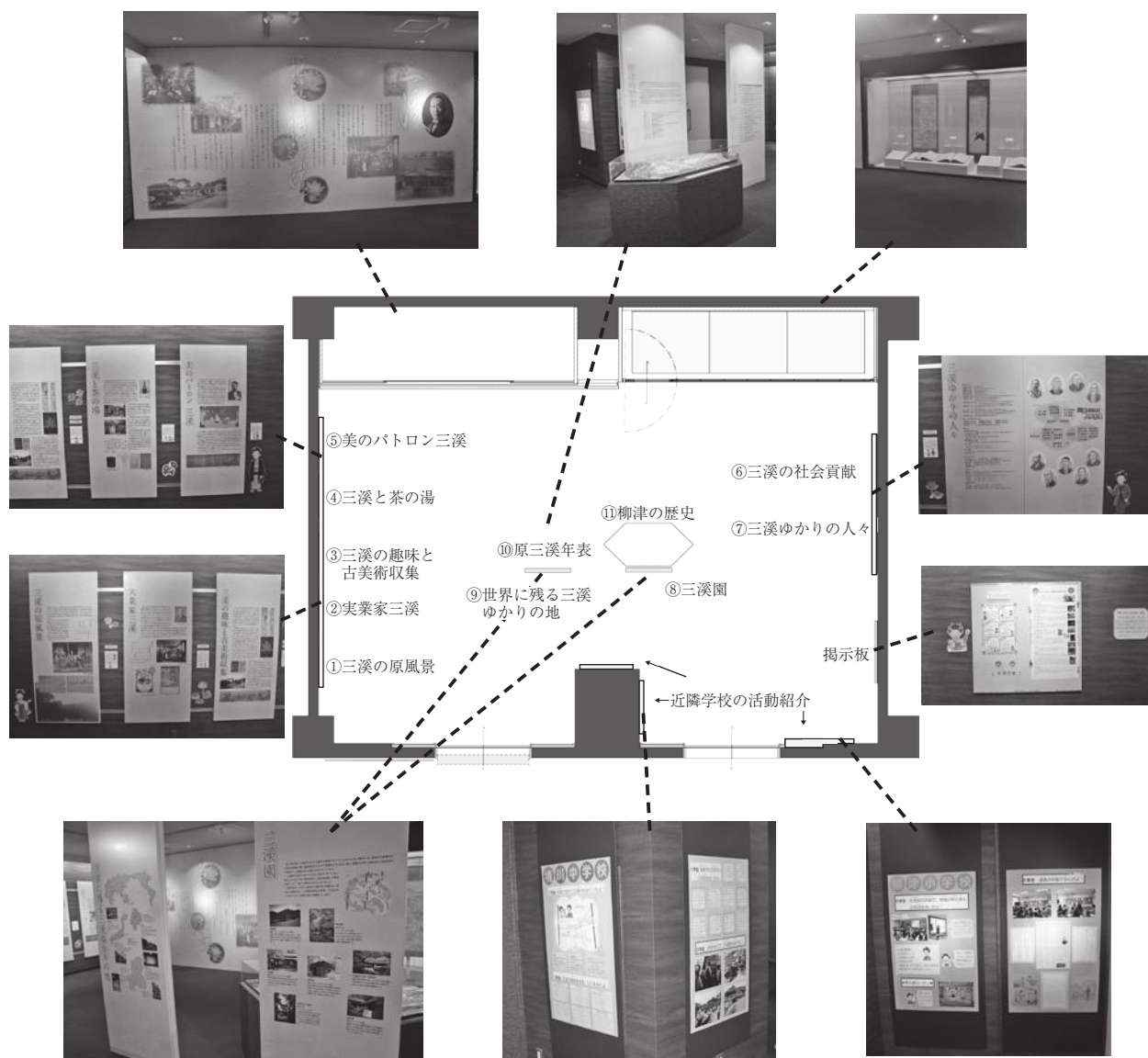
昭和元年(1926)ころ 132.2×32.5cm
岐阜市歴史博物館蔵

金華山と長良川の鵜飼をテーマにした原三溪の作品です。三溪が写実でなく自らの想いで描いた典型的な文人画といえそうです。

三溪ゆかりの水琴亭（岐阜市）にも同構図の作品が残されており、賛から昭和元年正月水琴亭に滞在した三溪が横浜に帰ってから、棚橋雲菴（水琴亭の主人）に贈ったことがわかります。この作品もそれに近い時期のものでしょう。

賛は三溪の十三回忌にあわせて出版された『三溪集』にも収録されています。その中で、三溪はこの図を江山旧識図と呼んでいます。古くから知っている江（長良川）、山（金華山）の絵という意味です。関東で活躍した三溪でしたが、故郷への想いは終生変わらなかったのです。

柳津歴史民俗資料室が 「原三溪記念室」に リニューアルオープンしました！



10月8日に、岐阜市柳津町もえぎの里の2階にある柳津歴史民俗資料室を原三溪記念としてリニューアルオープンしました。

原三溪は、岐阜市柳津町出身で、世界遺産に登録された富岡製糸場を経営し日本の近代化を牽引するとともに、文化芸術振興にも多大な貢献をした人物です。

展示はグラフィックを多用して、三溪の生涯とその業績を紹介するもので、三溪とふるさと岐阜のかかわりに焦点をあてています。また、学校教育でもご利用いただけるよう工夫し、三

溪に関する子どもたちの作品等も紹介することで、ふるさとの偉大な先人の生き方を学び、夢や志を持ち、自己の生き方を育む教育につなげていきます。

10月8日に開催したオープニングセレモニーには、100名以上の方にご参加いただきました。



企画展

ちょっと昔の道具たち

2016.12.21(水)～2017.3.5(日)

今年度で21回目を迎える展覧会。本展は小学校3年生の社会科単元「古い道具とむかしの暮らし」と連携し、今と昔の生活の違いや変化、過去の生活における人々の生活の知恵を紹介します。本展では「具体物を通して」学習する場を提供し、体験やジオラマ方式の展示形式で「五感で楽しく」学ぶことを目的にしています。また、会場内にはボランティアである「ものしり博士」が各コーナーで解説や体験補助をおこなっており、毎年ご好評をいただいています。

展示コーナーでは、「学校」「まちかど」「家のなか」「家のまわり」があり、いずれも児童の生活に関連した4場面を設定しています。「学校」「家のなか」は90～60年くらい前、「まちかど」「家のまわり」は60～40年くらい前の時代設定とし、ジオラマ形式に資料や展示することで、当時の様子が理解しやすいように配慮しています。このほかに、様々な道具の変遷がたどれる「道具のうつりかわり」があります。



街頭紙芝居のようす

本展では、展示内容や見学方法等について、岐阜市小学校社会科研究会の先生方と開催する博学連携委員会において協議するとともに、来館者アンケートも参考にしながら毎年見直しをおこなっています。本年は「道具のうつりかわり」をリニューアル、電話や音楽の再生機など、子どもの生活に密接に関わる道具が登場しま

す。また、「学校」のコーナーにおいても、「学校のうつりかわり」コーナーを設けて、学用品や教科書などの今と昔を比較しやすく展示する他、学校外の子どものくらしを紹介するものとして、「子守り」をテーマにした展示を行います。

なお、土曜・日曜・祝日には「おもちゃづくり教室」、「ものしり博士のわくわくワークショップ」、お手玉大会など、各種イベントがあります。世代ごとに様々な見方が味わえる「ちょっと昔」を、ぜひご家族でお楽しみください。



ものしり博士のわくわくワークショップ

関連行事

〈一般来館者向け〉

- おもちゃづくり教室 (各日11:00～、14:00～)
「羽子板ストラップ」[300円] 1月8日(日)・「親子でチャレンジ! 布で作る飾り梅」[800円] 1月22日(日)・「うぐいす笛」[200円] 1月29日(日)・「親子でチャレンジ! 布で作るさるぼほ」[800円] 2月5日(日)・「my おひなさま」[200円] 2月12日(日)・「都どり」[500円] 3月5日(日)
※ [] 内は材料費、定員各回20名(「親子でチャレンジ! 布で作る飾り梅」「親子でチャレンジ! 布で作るさるぼほ」は各回先着10名)、開始30分前より整理券を配布します
- ものしり博士のわくわくワークショップ (各日10:00～12:00、13:00～15:00) 12月24日、1月7日、14日、21日、28日、2月4日、11日、25日、3月4日の各土曜日
※「お手玉づくり」「万華鏡づくり」「わらのなわとびづくり」「おりがみ」「わりばしデッポウ」などを行います
- ものしり博士のわくわくコマ教室 (10:00～12:00、13:00～15:00) 2月18日(土)
- 糸つむぎ&綿くり体験 (各日13:00～15:00) 2月4日、11日、25日の各土曜日
- みんなあつまれ! お手玉大会 2月26日(日) 13:30～

〈学校団体向け〉

- 学校利用説明会(小学校教諭対象) 1月5日(木) 10:00～、14:00～
- たぬきの糸車 SPECIAL DAYS
2月2日(木)・3日(金)・16日(木)・17(金)
※都合により内容・時間等が変更になる場合があります
※学校団体見学の申し込みは、随時受け付けております。ご希望の見学日時が満員となる場合もありますので、お早めに博物館までご相談ください。

加藤栄三・東一記念美術館

開館25周年～感謝を込めて～ 所蔵作品展

2016.11.29(火)～2017.4.23(日)

当館が平成3年5月11日に「岐阜市出身で日展を中心に制作活動をつづけ、全国的に高い評価を受けている加藤栄三・東一兄弟画伯の画業を顕彰するとともに、地域の美術普及活動の充実、文化の振興に寄与する」ことを設立目的に開館して以来、今年で25周年を迎えます。

その間、栄三・東一先生のご遺族はじめ多くの方々から作品のご寄贈をいただき、所蔵作品も3,829点となりました。

素描が約8割を占めていますが、素描・下絵・本画（完成作品）と日本画独特の制作過程を系統的に検証できる美術館としてユニークな存在となっています。

今回は、多くの所蔵作品の中から小品を中心に展示します。

「素描の達人」として高い評価を受けている二人は、卓越した描写力、構成力に裏付けられ見ごたえの作品を描きました。

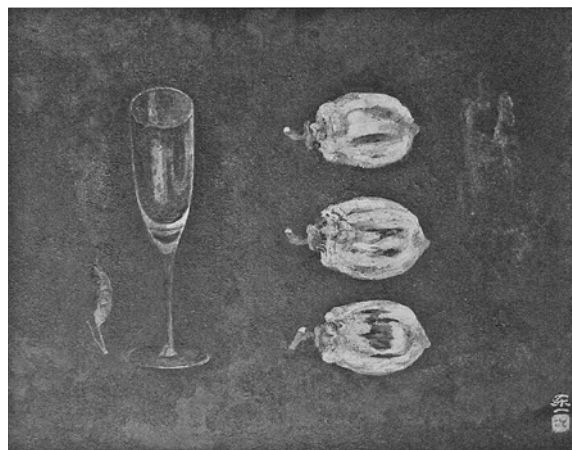
栄三の作品は、小鳥と花、植物の実と花など、無理のない取り合わせで日本画独特の技法・様式に基づいてこころ和む空気を表現した作品を



「宵」 栄三

多く描きました。

栄三作「宵」は軸装であった作品を額装に仕立て直した作品で、カラスウリの花を描いています。夏、白色で縁が糸状に裂けた美花を夜に開くというカラスウリの花。この花を描いた画家は少ないと思います。墨の濃淡を巧みに使い、運筆の素晴らしさは抜群です。よく見ると黄金虫が一匹描かれ、妙味を見せています。栄三ならではの名作の一つといえます。



「蜂屋柿」 東一

東一の静物画はモチーフ、構図の奇抜さにあるように思います。

三つの蜂屋柿を縦に並べ、それに透明のフルート型シャンパン・グラスと赤唐辛子を添え物として画面を構成し、バックの重厚な色調とともに力強い作品として完成させています。このモチーフの取り合わせの意外さが東一作品の真骨頂といえます。

この他にも、毛蟹と露草、薔薇とレモン、伊勢えびと柚子など、取り合わせの面白い作品を展示します。

画家の画風も年齢とともに大きく変わってきます。若いころに描いた若描きの作品から、晩年の画風が定着する作品まで、素描をまじえながら二人の魅力を幅広く鑑賞していただきます。

また、二人の作品の愛好家から、多くの作品を寄託作品としてお預かりしています。一人で約30点の作品をお預かりしている方もみえるなど、当館を陰から支えて頂いています。

当館を愛していただける多くの皆様に感謝を込めて作品展示を行いました。ぜひご来館いただきご鑑賞ください。

夏の子ども教室「銅鏡を作ろう」を開催しました

今年8月、夏の子ども教室「銅鏡を作ろう」を実施しました。この講座は過去にも行なっていましたが、今回は（公財）岐阜鑄物会館との共同主催で、岐阜県鑄物工業協同組合の協力をいただき、岐阜市内の鑄物会社・（株）岡本で作成しました。「昔の人の知恵と現代の最新技術を学ぶ」ことをテーマに、小学4年生～中学2年生と保護者の計14組の参加をいただき、2日間の日程で青銅鏡を作りました。

初日は青銅鏡の歴史・鑄造の技術・3Dプリンターについての解説の後、デザインの作成を行い、鑄造をしました。鏡のイラストデザインは、岐阜市鷺山市場遺跡出土の瑞花鴛鴦^{ずいかえんおうご}五花鏡^{かきょう}を大胆にアレンジした原型をベースに、中央は子どもたちが自由にデザインを行ったもので、ベースの原型は3Dプリンターによって用意しました。2日目は3種類のサンドペーパーを用いて研磨を行いました。

参加した子どもたちからは、「最新ぎじゅつも古いぎじゅつもぼくたちの生活をなりたさせるために必要だという事を学んだ」という感想が出ただけでなく、保護者の方からも「昔の人がとても貴重なものとしていた理由がよくわかった。金属が貴重であるうえに、昔は機械などが無いのに、こんなに大変な思いをして作ったことを学んだ」という声をいただきました。



鑄造のようす



鑄型から作品をとり出さようす

■分館 加藤栄三・東一記念美術館の展示■

本誌4ページで紹介した以外の分館展覧会は以下の通りです。

3月5日（日）まで いのちの輝き 布山淳一・幸子 二人展

3月7日（火）～4月23日（日）二紀会と歩む 小川 斉 洋画展

■特集展示（2階 総合展示内）■

2階の総合展示の一角に特集展示室を設置し、1～2ヵ月ごとにテーマを設けて資料を公開しています。これからの日程は次のとおりです。

12月11日（日）まで ちょっと昔の道具たち

12月21日（水）～3月5日（日）岐阜の年中行事

上記の日程は、都合により変更する場合もございます。ご了承ください。

研究ノート

岐阜市歴史博物館蔵

「賤ヶ岳合戦図屏風」雑考（前）

中島雄彦

はじめに

岐阜市歴史博物館が所蔵する賤ヶ岳合戦図屏風は、天正11年（1583）の羽柴秀吉と柴田勝家との戦いを六曲一双の屏風に描いた合戦図屏風である（以下、岐阜歴本と略す）。数多く伝わる賤ヶ岳合戦図屏風の諸本のなかでも特異な作品であると知られている。

それは、ひとつには、稚拙ともとれる人物や城砦等の描写に因るものであり、もうひとつには、その構図に因るものである。他に類例をみないことから、岐阜歴本は「孤本」とも評されている。

岐阜歴本を諸本、さらには合戦図屏風群のなかに明確に位置付けるだけの素材と準備は持ちあわせていないが、従来からの見解に対する疑問が生じたことから以下にまとめてみたい。

琵琶湖なのか？

岐阜歴本が「孤本」とされる要因のひとつに、諸本では画面向かって（以下同じ）右手から賤ヶ岳砦（右隻）・大岩山砦・岩崎山砦（以上左隻）と並ぶのに対して、岐阜歴本では賤ヶ岳砦・岩崎山砦・大岩山砦（以上左隻）と並んでいる点があげられる。

さらには、諸本では湖は余呉湖のみ描かれているのに対して、岐阜歴本では琵琶湖が描かれている点もあげられる。

前者については、諸本の大岩山砦・岩崎山砦に該当する砦に付箋が貼られ、それぞれ「高山右近城」・「中川瀬兵衛城 佐久間玄蕃 同久右衛門 不破彦三 徳山五兵衛 責落ス」と書かれていることから、岐阜歴本では羽柴方の高山右近・中川清秀の守った岩崎山砦・大岩山砦と解されてきた。また、岐阜歴本において、砦から撤退する高山右近勢の旗旗と岩崎山砦の旗旗が同じであることも補強材料である。

しかし、諸本は岩崎山砦を佐久間盛政が攻略する様子を描いており、岐阜歴本も同構図で、盛政が砦を攻める様子を描いているため、岐阜歴本では盛政が大岩山砦を攻略することになってしまう。付箋通りの解釈でよいのか、これが疑問の第一である。

後者については、諸本の右隻において、賤ヶ岳砦を左手に置き、退却する柴田勢を右方へと展開させていることから、賤ヶ岳北方からみた構図と解して、画面

下方の湖を余呉湖としているのに対して、岐阜歴本においては、秀吉の反撃から柴田方の撤退が右隻右手から左隻左方へと展開しているため、地理的にみて、賤ヶ岳の南方からみた構図として解釈し、下方の湖を琵琶湖としてきた。また、右隻に余呉湖が付箋付きで描かれていることも影響している。

しかし、岐阜歴本において「琵琶湖」沿岸での戦いの様子が描かれていることになるのだが、同所での戦いはおこなわれていない。構図の逆転を以て立地点が南北逆であるという理解は正しいのであろうか。これが疑問の第二である。

大阪城本との比較

1. 大阪城本左隻

大阪城天守閣が所蔵する賤ヶ岳合戦図屏風（六曲一双）は、制作の推定年代や描写から「祖本」とも評されている（以下、大阪城本と略す）。

同本と岐阜歴本とは類似した描写が随所にみられることから、これまでも比較はおこなわれてきているが、再度検討したい。

大阪城本左隻に描かれた合戦は岐阜歴本右隻第3扇～6扇上段に該当する。両者を比較すると、砦の位置や攻防の様子などは全体的に同構図で描かれている。それでは、細部についてみていこう。

（1）砦

両本とも大岩山砦・岩崎山砦について、山の高低差を利用して二重に郭を巡らして描いている。

岐阜歴本岩崎山砦【挿図岐－1】と大阪城本大岩山砦【挿図大－1】の櫓門、岐阜歴本大岩山砦【挿図岐－2】と大阪城本岩崎山砦【挿図大－2】の櫓門とに類似点を見出せる。門より出撃する羽柴方の描き方も似ているように見える。また、岐阜歴本大岩山砦と大阪城本岩崎山砦には金の団扇形の馬標がかかげられている。

ただし、岐阜歴本大岩山砦の吹流や岐阜歴本岩崎山砦金菱紋の幟旗、引両の幟旗の色（線の数異なる）、大鍬形の馬標（大阪城本では母衣武者の前立カ）などはそれぞれ大阪城本大岩山砦、岩崎山砦と類似している。



【挿図大－1】

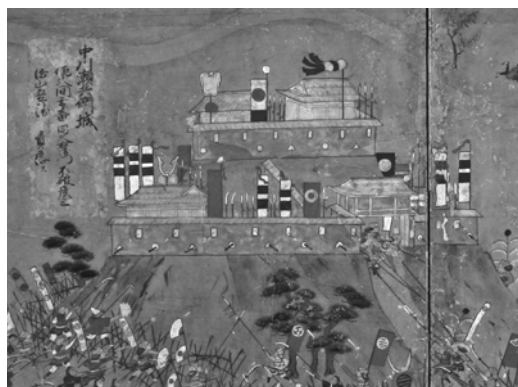


【挿図岐－１】

※「挿図大」は大阪城本を、「挿図岐」は岐阜歴本をあらわす。



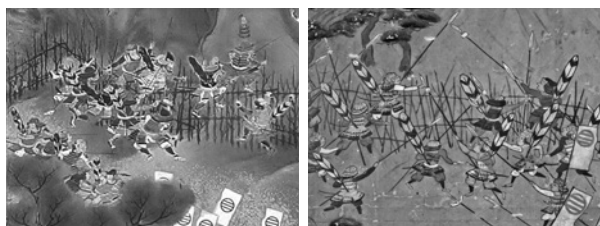
【挿図大－２】



【挿図岐－２】

(2) 旌旗・甲冑

色に相違もみられるものの、旗指物や母衣にも類似点がみられる。それらが構図上の同じ箇所描かれている点が目される。また、特徴的な兜の前立なども同箇所描かれている。



【挿図大－３】

【挿図岐－３】

佐久間安政勢、腰に鷹羽を差し大岩山砦（大阪城本、岐阜歴本では岩崎山砦）を攻める。

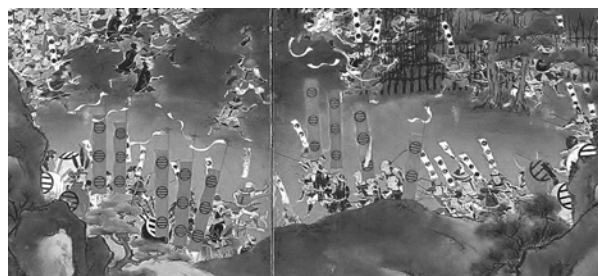


【挿図大－４】

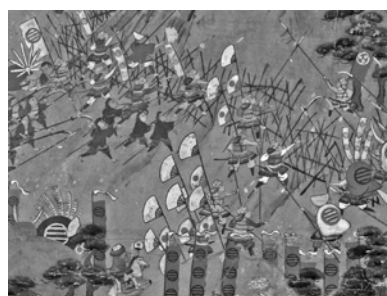


【挿図岐－４】

岩崎山砦（大阪城本、岐阜歴本では大岩山砦）を攻める徳山則秀勢、白黒縞の母衣・三日月の指物（岐阜歴本では兜の鍬形）・日の丸軍扇（岐阜歴本では馬標）などが類似している。



【挿図大－５】



【挿図岐－５】

岩崎山砦（大阪城本）を攻める佐久間盛政勢、丸に三つ引両紋の母衣、丸に三つ引両紋の旗指物や二連扇の旗指物がみえる。

(3) 人物

岐阜歴本には明確に比定できるよう描かれた人物は少ない。4月20日の戦いのなかでは佐久間盛政のみである。



【挿図大－６】



【挿図岐－６】

采配と軍扇を両手に持つ佐久間盛政、傍らには馬藺の後立を備えた母衣衆、丸に三つ引両紋の吹流がひかえる。

***** 館 蔵 資 料 紹 介 *****

三溪画集 第一輯

昭和5年（1930） 岐阜市歴史博物館蔵 50.0×35.5cm 公益財団法人 三溪園保勝会寄贈

原三溪の絵画・書などを掲載した図録です。第1輯の序文で、三溪は自分が亡くなった後友人たちに配るように、と記していますが、実際には生前から配布され、三溪は続いて二輯・三輯を刊行し、最後第四輯は昭和15年（1940）、三溪の一周忌にあわせ三溪の子・良三郎によって刊行されました。

三溪は幼いころから絵に才能を発揮しましたが、事業が多忙だった時代には絵を描く時間もあまりとれなかったようです。第一輯に掲載されたもっとも古い作品は大正3年（1914）のもので、大正元年ころから三溪は美術院の新進画家たちを三溪園に招き、自らのコレクションをもとに古美術鑑賞会を開くようになりました。そこで、若い画家たちと接することで刺激を受け、絵心に再び炎が灯されたのではないのでしょうか。

大正13年までは、『三溪画集』に作品が1点も収録されていない時期も多々みられます。大正13年は関東大震災からの横浜復旧に目途がたった時期です。その頃までは超多忙な生活をおくっていたのでしょう。三溪が息子たちに事業をまかせ、画筆に親しむことができるようになったのは、『三溪画集』（第一輯）が刊行されたころからでした。昭和8年ころ、三溪は友人に『今は閑さへあれば各地の名山勝地を探り、好きな彩筆を楽しんでゐる。画は実地を踏んで実写せねば実感が出ないでな』と語っています。

第一輯には別刷によるカラー図版も多数貼り付けられており、昭和初期の美術印刷史を考える上でも貴重な資料といえそうです。



利用の御案内

- **開館時間** 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
- **休館日** 毎週月曜日と祝日の翌日
(月曜日が祝日の場合はその翌日)
年末年始(12月28日～1月3日)
※特別展・企画展開催中は変更することがありますので、ご注意ください。
- **観覧料** (団体は20人以上)
歴史博物館総合展示、加藤栄三・東一記念美術館
高校生以上 300円 (団体240円)
小中学生 150円 (団体90円)
両館共通で観覧される場合
高校生以上 510円 (団体410円)
小中学生 250円 (団体150円)
◎下記の方は無料でご観覧いただけますので、①②の方は証明できるものをご提示ください。
①岐阜市在住の70歳以上の人
②身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳の交付を受けている人、およびその介護の方1人
③岐阜市内の小中学生

- ④家庭の日(毎月第3日曜日)に入館する中学生以下の人と同伴する家族(高校生以上)の方
企画展は、総合展示料金でご覧いただけます。
特別展は、その都度料金を定めます。

- **交通案内** JR岐阜駅・名鉄岐阜駅から岐阜バスにて長良方面行きに乗り、「岐阜公園歴史博物館前」で下車、すぐ東に歴史博物館があります。

岐阜公園内ロープウェー乗り場すぐ隣に加藤栄三・東一記念美術館があります。

博物館だより No.94 2016. 11

編集・発行 岐阜市歴史博物館

〒500-8003 岐阜市大宮町2-18-1 ☎058(265)0010

(分館) 加藤栄三・東一記念美術館

〒500-8003 岐阜市大宮町1-46 ☎058(264)6410